

## 教員プロフィール

	<p>保育科 講師</p> <p>竹中麻美子 (たけなか まみこ)</p> <p>Takaneka Mamiko</p>
所属	保 育 科
学位	学士(教養)(国際基督教大学)
資格・免許	
学歴・職歴	<p>&lt;学歴&gt;</p> <p>1992年 3月 国際基督教大学教養学部語学科 卒業 学士(教養)</p> <p>1992年 10月～1993年 7月 ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ ドラマ・アンド・シアターアーツ専攻</p> <p>1995年 9月～1996年 6月 ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ ドラマ、シアター・アンド・メディア・アーツ 専攻</p> <p>&lt;職歴&gt;</p> <p>1996年 12月 株式会社エフエム甲府制作部 (2001年 3月まで)</p> <p>2002年 4月 山梨学院短期大学兼任講師 (2007年 3月まで)</p> <p>2004年 9月 山梨学院短期大学事務局課員 (2009年 3月まで)</p> <p>2009年 4月 山梨学院短期大学保育科専任講師 (2020年 3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院短期大学保育科准教授 (現在に至る)</p>
担当科目	英語A 英語B 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ
専門分野	舞台芸術 英語コミュニケーション
現在の研究テーマ	異文化コミュニケーションへの興味を深め、外国語学習の意欲を高めるために役立つ学習素材の検討と授業展開の工夫
競争的資金等の研究課題	該当なし
所属学会	日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本英語圏児童文学会 日本シェイクスピア協会 Society for Emblem Studies 日本支部
メッセージ	学生生活は自分のやりたい研究、サークル活動、いろいろなことに思いっきりチャレンジできる時です。失敗を恐れず、自分自身の可能性をたくさん見つけてください。皆さんのさまざまな挑戦を心からサポートし、応援しています。

教育	
2020年4月～2021年3月	
教育方針	様々な価値観、文化的背景を持つ人とのかかわりの中で成長し、グローバル社会で生き抜く力を持つ若者の養成
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;英語A&gt; 英語が苦手、英語は嫌い、という意識を変革することに力を入れている。内容を知りたい、使って楽しい、相手に伝わって面白い、という経験を積むことで、苦手意識を克服し、表現手段としての英語力をつけることを目指している。2020年度前期はオンラインでの開講であったため、入学直後の学生たちの友達づくりの場が激減した。そこで、ヴァーチャル空間で留学生と交流するイベントを企画する、という設定で授業を展開した。</p> <p>ラジオ番組のようにオープニングとエンディングを設定し、オンラインが続く中で、気持ちの切り替えと授業の終わりの達成感を感じられるよう工夫した。英語の時間は楽しみで、あっという間に時間がすぎていく、というコメントを得た。</p> <p>&lt;英語B&gt; 食物栄養科、保育科、それぞれの学生の興味関心を高めるような教材を取り入れている。それぞれの学生の専門分野について今日的な話題にあふれた素材を新聞、雑誌、メディア等から取り入れ、活用している。アクティブラーニングの要素も使い（感染予防のため、時間を区切り）、友達との学び合いの時間を取り入れた。時には同じ間違いをすることで自分と友人の弱点を知り、新たな学びにつながったという学生が増えた。</p> <p>&lt;子育て支援演習&gt; 子育て支援に様々な形でかかわる方々にゲストスピーカーとして来ていただいているため、事前にタブレットで資料を配布することで、学生の学びを深めることができるようにしている。また、講義を受けた学生の声を速やかにゲストスピーカーに届けられるよう、タブレットを活用した授業展開をしている。2020年度は、事前収録の動画を活用しながら現場の様子を詳細に伝えることができるような工夫をした。</p>
	<p>授業改善のための取組</p> <p>新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで開講される研修会に積極的に参加した。学びの環境の変化に対応するための知識や技術を習得し、授業の際に活用した。</p> <p>留学生や他学部の学生と交流する場が激減し、英語を話す機会や友達作りの機会が奪われた学生に対し、オンライン交流会やコンテスト等の参加を促した。国際交流センターが発行するニューズレターを積極的に学生に紹介し、新たなチャレンジに参加するきっかけをつくった。</p> <p>WebClassを活用した授業展開の工夫にも取り組んだ。アンケート機能を利用し、問題演習の際、学生の選択肢をグラフで提示、リアルタイムで変化する回答を速報した。アクティブラーニングと併用することで学生は楽しみながら学びを深めることができた。</p>

教育 (つづき)		
2020年4月～2024年3月 (つづき)		
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p>学生の自主性を重んじることを大切にゼミ活動を行っている。学生自身が興味のあるテーマについて研究を深められるよう、支援している。また、それぞれの研究や活動の課題、実習での経験を発表する場を多く設け、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を上げているための工夫をしている。</p> <p>また、国際交流活動にも力を入れ、学部、学科を超えた交流や留学生との交流、イベントでの様々な日本文化の紹介に努めている。2020年度は新型コロナ対策のため、大勢が参加するイベントを実施することはできなかったが、コロナ禍であっても、学生同士の交流を途絶えさせてはいけないと考え、様々な国の特色あるクリスマスを、写真やPPTを使って紹介し、異文化を疑似体験する、というプロジェクト、クリスマストリップを新型ウィルス感染予防を徹底しながら実施した。この取り組みは、山梨学院スチューデントズオブザイヤー賞社会活動部門を受賞した。</p>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のクリスマスについて –国際交流イベントから学ぶこと–</li> <li>・宝塚歌劇の魅力 –106年の歴史とファンに愛され続ける理由–</li> <li>・世界から心の貧困をなくす –私たちができることは何か–</li> <li>・スタジオジブリの魅力と影響 –人気3作品から探る作品に込められた想い–</li> <li>・施設や制度から考える日本の待機児童問題 –スウェーデンと比較して–</li> <li>・昔と現代の恋愛と結婚観について</li> <li>・日本の声優、海外のVoice actor</li> <li>・ダンスが苦手な日本人 –日本と欧米におけるリズム感の比較–</li> <li>・グリム童話が子どもたちに与える影響 –原作とディズニー版を比較して–</li> <li>・子育てのしやすい環境についての考察 –社会変化の背景、具体的事業内容の検討から–</li> <li>・東京ディズニーリゾートに学ぶ人を楽しませる力</li> </ul>
課外活動	<p>短期大学芸能部顧問として学生の音楽活動を支援している。学部と合同で行う活動が多いので、短大生と学部生の橋渡しの役割も担っている。また、クラブ紹介等のイベントで部が所有する音楽機材を提供することで学友会の活動をサポートしている。</p> <p>演劇部門の顧問兼コーチとして、学生の演技指導も行っている。2020年度は演劇系のイベントは開催が難しかったため、朗読の練習の機会を増やし、作品理解の力をつける取り組みを行った。</p> <p>古典芸能部顧問として、伝統芸能を学ぶ学生の支援にも力を入れている。留学生と交流する機会の少ない短大生に、古典芸能を通して留学生と関わる機会を多く設けている。</p>	

教育 (つづき)		
2020年4月～2024年3月		
主な教育業績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度、山梨学院短期大学において、卒業演習Ⅱの一環として、ゼミ生がクリスマス・トリップという異文化紹介イベントを実施した。</li> </ul>	
2020年3月以前		
主な教育業績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が学院小学校トワイライトスクールにおいて朗読会を行った。</li> <li>・2019年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が iCLA 言語学習センター国際交流イベントにおいて日本文化紹介「着物の文化体験講座」と「折り紙体験講座」を行った。また、食物栄養科の日本食紹介のサポートを行った。</li> <li>・2017年度 卒業演習Ⅱでゼミ生が留学生に向けた日本昔話の人形劇を上演した。</li> <li>・2017年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が総合図書館において幼稚園児に向けた絵本の読み聞かせイベントを行った。</li> <li>・2006年度～2016年度 保育科オペレッタ上演の脚本、演出指導を行った。2013年度には、舞台制作の様子がテレビ局の取材を受け、放送された。</li> </ul>	
研究		
2020年4月～2021年3月		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) 小学校英語における「聞く」・「話す」ことから「読む」・「書く」ことへの展開 ー複数の領域をつなげる“コミュニケーション”に注目してー (単著)	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
(学術論文) 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践 (第1報) ー英語特有の発音“th[θ]”獲得の試みー (単著)	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻
(学術論文) 小学校の英語教育に関する教育方法論的考察ーA小学校の授業観察と教諭インタビューからー (共著)	2021年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻

研究 (つづき)		
2020年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) テレビ番組を活用した英語授業の展開 第2報 -食育番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに- (単著)	2019年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第39巻
(学術論文) テレビ番組を活用した英語授業の展開 第1報 -料理番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとに- (単著)	2018年2月	山梨学院短期大学研究紀要 第38巻
(その他:研究発表) 観客としての子どもの反応についての一考察 (単著)	2016年5月	日本保育学会第69回大会
(その他:研究発表) 子どものための舞台制作-脚本作りを通じた学び- (単著)	2012年5月	日本保育学会第65回大会
(その他:翻訳) 「日本料理と山梨県の郷土料理」	2010年3月	山梨学院短期大学食物栄養科
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2020年4月～2021年3月		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FM 甲府子育て支援番組ディレクター (1997～現在に至る)</li> <li>・ FM 甲府生涯学習の時間 聞き手 (2009～現在に至る)</li> <li>・ 大学コンソーシアムやまなし主催やまなし留学生スピーチコンテスト実行委員 (2011年度～現在に至る)</li> <li>・ 山梨学院 ICC (Intercultural Center) 評議委員 (2017年度～現在に至る)</li> <li>・ 山梨学院生涯学習センター主催ワイン講座コーディネーター (2011年度～現在に至る)</li> <li>・ 山梨学院生涯学習センター主催日本文化ワークショップコーディネーター (2018年度～現在に至る)</li> <li>・ 山梨学院生涯学習センター主催英語ワークショップコーディネーター (2011年度～現在に至る)</li> <li>・ FM 甲府ラジオ番組「生涯学習の時間」聞き手 (2009年度～現在に至る)</li> <li>・ 山梨学院生涯学習センター紀要編集委員 (2015～現在に至る)</li> <li>・ 山梨学院生涯学習センター・山梨学院国際交流センター主催英語スピーチコンテスト審査員 (2010～現在に至る)</li> <li>・ 山梨県子どもの夏休み期間の生活リズム改善作戦-県産食材を使った食育と食支援による地域活性化- (地域連携事業支援プロジェクト) に参加 (2020～現在に至る)</li> </ul>		

社会貢献（つづき）

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2020年3月以前（主なもの）

- ・大学コンソーシアムやまなし主催山梨県大学ガイダンスセミナー実施委員  
（2017年度～2019年度）
- ・大学コンソーシアムやまなし主催学生イニシアティブ事業審査員（2016年度～2019年度）
- ・山梨学院生涯学習センター主催やまなし学研究コーディネーター（2018年度）
- ・山梨学院大学文化交流センター・山梨学院生涯学習センター主催日本語スピーチコンテスト審査員（2016年度）
- ・大学コンソーシアムやまなし・山梨学院生涯学習センター主催県民コミュニティーカレッジコーディネーター（2013年度）

受賞 ※個人、所属団体

山梨学院スチューデントオブザイヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020年）  
山梨学院学生チャレンジ制度採択（鈴木・竹中ゼミナール有志）（2019年）  
農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞（2019年）  
山梨学院スチューデントオブザイヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2018年）